

3 1. 2024 年度 大分県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

大分大学医学部附属病院 脳神経外科/医療情報部 松田 浩幸

1. 概要

大分大学医学部附属病院は、2023 年 10 月 18 日に大分県よりてんかん地域連携体制整備事業におけるてんかん支援拠点病院の指定を受け、活動を開始した。

2024 年度の体制としては、初年度である昨年度より継続して専任コーディネーター1 名（看護師）と院内のてんかん専門医 2 名（小児科・脳神経外科）が中心となって活動を行っている。

2. 活動内容

1) 大分県てんかん医療・地域連携協議会

2024 年 7 月 11 日に 2024 年度大分県てんかん医療・地域連携協議会を開催、てんかん地域連会体制整備事業・てんかん支援拠点病院の昨年度の事業について報告、本年度の事業計画について検討、承認を得た。

協議会構成員は以下の通り。

	氏名	所属	
1	石田 重信	あけのメディカルクリニック 理事長・院長 一般社団法人 大分県医師会	てんかん専門医
2	岡成 和夫	大分県立病院 小児科 副部長	
3	朝倉 豊美	公益財団法人日本てんかん協会大分県支部代表	家族
4	土山 幸之助	大分県こころとからだの相談支援センター所長	
5	藤内 修二	大分県保健所所長会（大分県豊肥保健所長）	都道府県
6	荻 貴伸	大分県障害福祉課 課長	
7	松田 浩幸	大分県てんかん支援拠点病院 （大分大学医学部附属病院脳神経外科）	事務局兼委員
8	小林 修	大分県てんかん支援拠点病院（大分大学医学部附属病院小児科）	
	佐々木 基子	大分県てんかん支援拠点病院（コーディネーター・看護師）	
	吉田 英彦	大分県障害福祉課精神保健福祉班 課長補佐（総括）	事務局
	津田 里咲	大分県障害福祉課精神保健福祉班 技師	

2) てんかん電話相談窓口

コーディネーターによる市民向け電話相談窓口を開設した。昨年度は年度途中 10 月からの事業開始であったため、実質的には初年度運用である。

・相談内容：4 月から 1 月までに 44 件の問い合わせがあり、そのうちてんかん患者および家族からが 25 件、職場・福祉関係・教育機関等が 10 件であった。当事業の相談窓口では、職場や学校関係者も相談対象として PR しており、有効に機能していることが伺われる。内容としては「治療・検査に関すること」が最も多く 15 件であったが、「受診勧奨」「医療機関紹介」「セカンドオピニオン」各 4 件など医療機関についての問い合わせも多く、後述のてんかん医療機関リストを有効に活用した相談対応を行うことができた。昨年度に引き続き「教育・仕事問題」「生活・療養問題」「心理・情緒問題」の相談も継続してみられ単なる医療相談だけにはとどまらなかった。相談対応時間は 15 分未満が 22 件と半数は短時間であったが、30 分前後、30 分を超えるものも多くみられた。相談者側で質問内容が明確なものに関しては比較的短時間で、心理・情緒関連等は相談時間が長くなる傾向にあり、今後作成する HP など情報提供を充実させることが、相談者側での理解を促進しより有効な相談窓口の利用につながるのではないかと予測される。福祉・教育機関からの相談でミダゾラム口腔溶液の使用法についてのもがあり、保護者との連携でコーディネーターが保育施設・学校へ出張しての訪問指導へつなげることができた。

相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
	4	4	3	3	1	6	4	4	5	10	44

相談者の属性

年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	合計
	0	1	0	8	7	2	5	1	1	25

性別	男性	女性	不明	合計
	10	31	0	41

続柄	本人	親	子	配偶者	親戚等	職場	福祉	行政	医療従事者	波の会	教育機関	友人	合計
	7	14	1	1	2	1	2	0	2	9	3	2	44

相談について

相談時間	10分以内	10-15分	15-20分	20-25分	25-30分	30分以上	合計
	10	12	6	0	7	9	44

相談内容

てんかん支援拠点病院について	4
てんかん専門医について	9
治療・検査に関すること	15
他医療機関紹介	4
関係機関紹介	2
初期受診勧奨	4
セカンドオピニオン	4
自立支援制度について	2
医療費相談	2
医療・福祉に関する不満	1
教育・仕事問題	8
社会福祉制度の相談	3
医療・福祉施設相談	2
生活・療養問題	8
心理・情緒問題	7
運転免許について	1
移行期医療について	4
その他	13

その他

パープルデーおおいた（ライトアップについての問い合わせ、3件）
 子どもへの病気の説明・育児について（2件）
 VNSについて
 施設でのてんかん研修について
 災害時の処方薬について
 波の会と情報共有（2）

3) てんかん地域連携・診療体制調査、事業ホームページ作成

大分県内の各医療機関に、てんかんに対する診療体制や提供可能な医療についての調査を実施、結果を公表した（進行中、随時更新予定）。大分県ホームページ内より結果を参照可能である。

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12500/tenkan-iryoukikan.html>

また、大分大学医学部附属病院ホームページ内に、てんかん支援拠点病院ページを作成中である。本ホームページ作成は、大分県に対する篤志のご寄付より費用が拠出されている。この場を借りてご寄付元へ御礼申し上げます。

4) 啓蒙・啓発活動

・リーフレット作成配布

地域連携協議会での検討より、県障害福祉課と共同で当事業・相談窓口のリーフレットを作成、本年度内に5000部を、県内の保健所・各市町村の障害福祉課、県教育庁研修参加の公立小中学校・高校、精神科病院協会麾下の関係機関、大分県薬剤師会加入の600薬局へ配布を行った。

・市報/広報誌への掲載

県内各市町村の市報（県内全12地域）及び地方紙の広報誌へ、相談窓口の案内を掲載。リーフレットや市報から相談窓口へのアクセスもあった（3件）。

・SNS利用

てんかん拠点病院事業でInstagramアカウントを作成し、相談窓口の日程やイベントの発信を行っている。
 ・市民公開講座/啓発イベント（2023年度活動）パープルデーに合わせ、2024年3月24日に市民公開講座を開講した。また、前後の期間でライトアップイベントも実施した。市民公開講座は会場・Web併せて100名超の聴講あり、アンケートでも概ね好評であった。

本年度は2025年3月20日に、昨年度より定員増にて開催予定である。



大分県てんかん支援拠点病院
大分大学

市民公開講座

2024年3月24日(日)
14:00~15:00
JCOM ホールホール大分 3階302会議室
(会場は先着50名)
※ハイブリッド開催

知ってほしい「てんかん」のおはなし
~知ることが支え合うための第一歩~

「てんかん～若者男女の病気～」
脳神経内科 竹内陽介先生

「内服治療の基本と生活への影響
～内科治療を知る～」
小児科 小林修先生

「支援拠点病院ははじめました
～拠点の役割と地域連携～」
脳神経外科 松田浩幸先生

申し込み方法 (締め切り3月15日)

- QRコードより資料ダウンロードしてください。
- 申し込みフォームに必要事項をご記入の上送信して下さい。
※資料ダウンロード: <https://forms.gle/8222222222222222>
- 資料申請に希望の方は、後日、ご記入頂いたメールアドレス宛に
お知らせいたします。【メール、お電話、お電話受付窓口】より返信
いたします。
- 開催日直前に必要事項が揃っていない場合は、
お問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先
tekanan_support@med.u.ac.jp
090-9813-1079 (お電話・メール: 受付時間当日のみ)

主催: 大分大学医学部附属病院 (大分県てんかん支援拠点病院)
※大分県てんかん医療地域連携体制整備事業として実施
後援: 大分県、大分市、公益社団法人日本てんかん協会大分県支部、
シワアソワ株式会社

大分県てんかん支援拠点病院
大分大学

第2回市民公開講座

「てんかんをもっと知ろう！」
医療法人緑誠会 博愛病院
精神科 釘宮 毅先生
大分大学医学部附属病院
脳神経内科 増田 隆彦先生
小児科 小林 修先生
脳神経外科 柳田 暢志先生

2025年3月20日(祝・木)14:00~15:30
※Webと現地のハイブリッド開催
会場 JCOM ホールホール大分 3階 302.303会議室

※事前申込必要
会場: 申込先着100名
Web: 人数制限なし

申し込み方法 (期間: 1月14日~3月14日)
1. 下記QRコードより資料ダウンロードしてください。
※申し込みフォームに必要事項をご記入の上送信して下さい。
※資料ダウンロード: <https://forms.gle/8222222222222222>
2. 資料申請に希望の方は、後日、ご記入頂いたメールアドレス宛に
お知らせいたします。【メール、お電話、お電話受付窓口】より返信
いたします。
3. 開催日直前に必要事項が揃っていない場合は、
お問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先
tekanan_support@med.u.ac.jp
090-9813-1079 (お電話・メール: 受付時間当日のみ)

主催: 大分大学医学部附属病院 (大分県てんかん支援拠点病院)
後援: 大分県、大分市、公益社団法人日本てんかん協会大分県支部、
シワアソワ株式会社

5) その他・連携活動

- ・当事業コーディネーターと、その他の相談窓口(大分県小児慢性疾患相談事業、医療的ケア児支援センター)のコーディネーター・相談員で定期的な情報交換や事例検討ミーティングを開催している。また、この連携について大分県小児保健学会での発表を行った。
- ・電話相談事例から、保育園等へ出張してミダゾラム口腔用液の使用法レクチャーを実施した。また、大分県教育庁での養護教諭対象の講演会からの要望で、学校へ出張しての現地指導を行うことができた。
- ・今年度事業内で新たに2名全国てんかん地域診療体制整備事業認定てんかん診療支援コーディネーター資格を取得した。

3. てんかん診療・診療支援

月1回の多職種てんかんカンファレンスを開催、主に症例検討を行っている。
2024年(1月~12月)のてんかん外科手術件数は13件であった。
てんかん地域診療支援として、医師派遣によりてんかん専門外来を県内遠隔地2ヶ所に開設、それぞれ週1回、月1回のてんかん専門外来診療を行っている。

4. まとめ

大分大学医学部附属病院では、2023年10月よりてんかん支援拠点病院の指定を受け活動を開始したため、実質的には本2024年度が初年度の活動となった。
電話相談窓口については、開設当初の宣伝効果が薄れたためか、昨年度と比較して件数が減少している。本年度後半にかけてリーフレットや市報などでの広報を行っており、これらの効果を見て、来年度以降の追加での広報活動を検討していきたい。内容としては相談から継続して保育施設・学校への訪問指導など単純な電話相談に留まらないてんかん患者・地域支援を行うことができ、昨年度よりもさらに充実したと考えている。
広報・啓蒙活動は昨年度末に開催した市民公開講座が100名超の参加を得て、潜在的な関心及びニーズの高さを伺わせる結果となった。本年度は定員を増加、イベント内容も補強して実施予定としているが、来年度以降もこれらのニーズに応えられるよう、活動内容の検討、充実を図っていく方針である。
大分県は県内のてんかん診療体制が充足しているとは言えず、地域連携体制整備事業を通じて、診療体制の充実、医療資源の有効活用、医療・介護・福祉等領域間連携の推進を図り、てんかん患者さん・ご家族、関係者の地域での医療・介護へのアクセス改善へ引き続き取り組んでいく必要がある。